

平成26年度 各種調査結果等を活用した学力向上の取組事例

事務所名	沿岸南部	学校名	大船渡市立赤崎中学校	TEL	0192-26-3525
------	------	-----	------------	-----	--------------

「授業(する・見る)の視点」を活用した模擬授業研修による授業改善の取組

【ねらい】

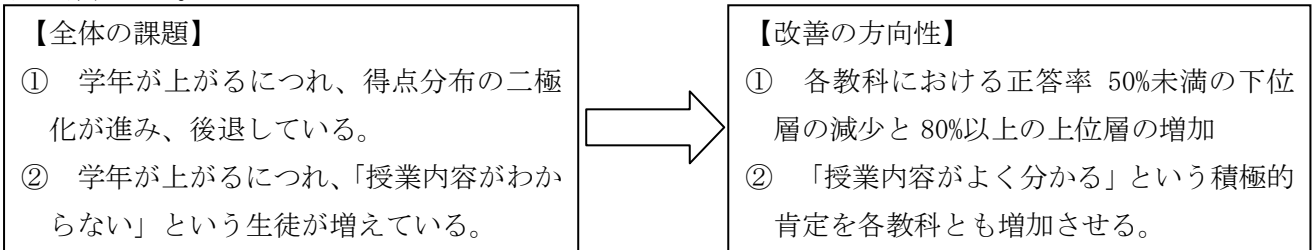
「わかる」「できる」授業づくりの指針として、「授業(する・見る)の視点」を設定し、模擬授業や授業参観を通して授業改善を図り、学習の基礎・基本を定着させていく。

【具体的な取組】

(1) 県学習定着度状況調査の課題把握

① 分析結果が示す課題と改善の方向性の確認

・平成25年度の県学習定着度状況調査の結果をもとに、本校の課題を確認し、今年度の授業改善の方向性を確認した。



・教科部会で、定着率の低い問題や無解答の多い問題を洗い出し、授業の中で定着させていくことを確認した。(4月)

② 授業改善の取り組み

ア 基礎・基本の習得をめざす授業展開【改善の方向性①】

どの生徒にも基礎・基本を定着させるという観点から、授業を組み立てていく。

教科名	各教科の取り組み
国語	① 漢字テストを主とした小テストを実施する。 ② 既習事項の確認の機会を多く設定する。(ワーク・Gアップシートなどを活用しながら) ③ グループ学習(話し合い学習)のルール of 定着と実践。
社会	① 基本用語定着のための小テストを実施する。 ② 前時の学習内容について、ノートをもとに復習する。 ③ 資料活用能力を高めるために資料の読み取りの指導を単元指導計画に位置づける。 ④ 思考力・判断力・表現力を育成するために、学習課題に対する自分の考えを書く場面を設ける。
数学	① 四則計算を中心に毎時間「計算カスピード練習」を行う。 ② 前時の復習問題を数問取り組む。 ③ 計算過程について、言葉を用いて説明させるようにする。 ④ ワークを授業中に取り組む時間を計画的に設ける。
理科	① 基本用語を授業の中でわかりやすく、印象的に提示する。 ② 基本用語定着のための小テストを実施する。 ③ 実験・観察を通して基本技能を身につける。 ④ 結果の考察を通して、考え方を身につける。
英語	① インプットシートを使って語彙の定着を図る。 ② 「基礎徹底シート」を活用して、基本文の定着を図る。 ③ ディクテーションテスト(書き取りテスト)を継続して行い、書く力を養う。

イ 「授業（する・見る）の視点」に基づく模擬授業研修【改善の方向性②】

○ねらい～「授業（する・見る）の視点」の具体的内容（指示や工夫など）を共有化する。

・生徒役を体験することで、日々の授業改善に役立てる。

○方法～**模擬授業（5～10分程度）** 1回の研修につき、4名程度実施。



「授業の視点」による評価 生徒役の教師が、「授業の視点」で授業を肯定的に評価する。



「授業の視点」に基づいて意見交流 よかった点をシェアし、視点の具体的内容を増やす。



改善策を提示 研究主任から意見交流で指摘されなかった点について代案を提示し、授業をブラッシュアップする。

○授業（する・見る）の視点（H26年度の重点項目は④～⑥）

- ① 一度に一つの指示を出している。
 - ・一つの発問や作業指示で、2つ以上の学習活動を要求しない。
- ② 発問や指示が明確である。
 - ・不要な言葉を削る。くどくどしい説明はしない。
- ③ 生徒の発言を生かしている。
 - ・ほめる。認める。広める。
- ④ 一目でわかる工夫をしている。
 - ・動作、板書、提示資料、具体物等。
 - ・聴覚情報のみに頼らず、視覚からもきっちり情報を入れる。
 - ・授業の流れやポイントがわかるような板書を工夫している。
- ⑤ 発問や指示を全員に伝えている。
 - ・発問→作業指示→学習活動→評価・評定のサイクルが授業で展開されている。
（やる気を引き出す、評価が授業の中でなされている ③の重点との関連）
 - ・大切なことを言うとき、全員を注目させている。
- ⑥ 空白の時間を作らない。
 - ・生徒の理解度(作業の早い子、遅い子)に応じた配慮がなされている。
 - ・学習が成立しにくい生徒を支援している（机間指導、個別指導など）
- ⑦ 授業の中で達成度の中間確認を行っている。
 - ・机間指導、個々の理解度・作業進行状況の把握等。
- ⑧ 指導内容の配列に必然性がある。
 - ・生徒が「わかる」「できる」組み立てになっている。
- ⑨ 生徒に授業の見通しを持たせている。
 - ・どこまでやればよいか。どうすればうまくいくか、生徒がわかっている。
- ⑩ 生徒の学習意欲を高め、学び合いを組織している。

ウ 「授業（する・見る）の視点」に基づく授業参観【改善の方向性①②】

○ねらい～「授業の視点」を生かした授業改善をさらに活性化させる。

・学習定着度状況調査に向けた取り組みを推進させる。（9月）

○実施期間～9月と11月

○内容～期間中に必ず1回は授業を公開する。

- ・参観者は、「授業の視点」をもとに意見や感想をシートに記入し、授業後、授業者と意見交換をする。

【成果】

- (1) 模擬授業研修や参観授業を重ねることで、「授業の視点」を意識した授業改善につながっている。
 - ・一目でわかる工夫として、ICTを活用した授業が昨年度よりも増えてきている。
- (2) 模擬授業研修を通して、互いの授業からよいところを学び合って、自分の授業改善に役立てる雰囲気生まれてきている。